

神戸市総合基本計画審議会第4回都市空間部会 議事要旨

日時： 平成 22 年 3 月 31 日（水） 9：30～11:30

場所： 神戸市役所 1 号館 28 階 第 4 委員会室

出席者：安田部会長ほか 17 名

【会議要旨】

- ・ 事務局より、これまでの審議経過と今後の審議予定（資料 2）の説明、第 2 回総会会議要旨（資料 3）についての確認等が行われた。
- ・ 安田部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、事務局より、本日の議題である「神戸づくりの指針 素案」（資料 4）について、概要版（資料 5）、部会の審議事項一覧（資料 6）、目次対照表（資料 7）などにより順次、説明が行われ、審議された。（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

議題：「神戸づくりの指針」素案の審議

1. 素案の全体構成等について（資料 5 神戸づくりの指針 素案 概要版）

【全体構成等について】

（序論の記述について）

- ・ 序論に震災復興を出発点にして、「安全・安心」を掲げるのはおかしいのではないか。序論では、震災後、まちが安全になっているかを示し、耐震化の取り組みがなかなか進まない、密集市街地で市街地火災の危険なところが残っている、異常気象により河川での災害が起こっている、少子超高齢化により人による対応が困難になっている課題を記載すべきではないか。
- ・ 立脚しているところの書きぶりの問題だと思う。指針自体は重点施策の考え方を示すところにポイントがある。施策については重点施策計画での議論があるものと考えている。（超高齢化への対応について）

- ・ この指針では、少子超高齢化が社会潮流として上げられている。少子化については、第 3 部で大きく取り上げられている。超高齢化についての対応の項目をあげていく必要があるのでは。

（むすびの記述について）

- ・ むすびの記述が、メガ・リージョンに引っ張られすぎていると感じる。人財もよいのだが、やはり神戸らしさがポイントではないか。むすびは、神戸には自然・文化・歴史資源があり、それを大事にしたまちづくりを行っていくということで締めくくるべきではないか。そういう流れでいくと、部の構成も 5、7、6 という並びがよいのではと思う。

(事務局)

- ・まちの安全に対するご指摘は、われわれも共通の認識をもっている。
- ・超高齢化への対応について、ご指摘の点は重大な問題と受け止めており、指針素案においては、全部にわたって記載させていただいているところである。

2. 都市空間部会の審議事項 (資料4 神戸づくりの指針 素案)

【安全を高め未来につなぐ 等について】

(低炭素社会の実現について)

- ・ P54 の低炭素のところでは、「進める」「導入」「推進する」といろいろな言葉を使われているが、言葉の使い分けについて説明してほしい。
- ・ P56 市民参加の部分が少ない。④には3Rの取り組みがあるが市民行動を具体的に記載してほしい。例えば2025年には生ごみをバイオの技術で肥料化することも一般化していると思うので、そのような記載があってもよいのではないか。
- ・ 「歩いて暮らせるまちづくり」は大事。記述内容として2025年をめざしてのものというよりは、現状からみた記述が多く、表現が弱いような気がする。例えば商店街が建てられないところに建てられるようにするのか。もう少し記述を見直す必要があるのではないか。
- ・ P54 ともに進める取り組みの①ア(ウ)「利便施設等の維持・誘導を図ります」の記述の「誘導」は、「立地」に表現を変えるべきでは。
- ・ P54 ともに進める取り組みの①イ(イ)「六甲山系南側の既成市街地における公共交通ネットワーク」「回遊を支援する環境にやさしい公共交通」で具体的なイメージが湧かない。新たにどんなものを導入しようとしているのか。
- ・ LRTも市がやる発想ではなく、民間ベースで実現可能かどうかを考えていく時代である。市街地が山麓部まで伸びていく話があったが、市街化区域の拡大を抑制する方向性はぜひ守ってもらいたい。

(まちの美しさ、景観の記述について)

- ・ P53 の景観の部分で、特徴的なまちなみを有する地区として北野、旧居留地の次に南京町の記述を追加できないか。

(事務局)

- ・ 記述表現について、「進める」「推進する」はほぼ同義で使っている。導入は新しく取り組むということで考えている。
- ・ 公共交通ネットワークについて、神戸はもともと3層構造として阪急、JR、阪神が起点となってきたが、これまでの市街化により南北に居住地などが伸びてきている。その意味では山麓交通軸、ウォーターフロント交通軸といった考え方で、公共交通のネットワークを維持形成しようとしている。

・ウォーターフロントではLRTなどは採算上の問題もあるので慎重な対応が必要と考えている。いずれにしても、低炭素社会を実現する環境にやさしいもので、定時性の確保が可能な交通手段を検討していきたい。

【神戸を支えるまちの形成等について】

(海・空・陸の総合交通体系について)

- ・ P64 ともに進める取り組みの①ア(イ)「関西三空港の一体運用」は先行きが不透明な状況であるが、神戸空港自体の機能強化を図る記述を後に入れられないか。
- ・ P64 のめざす姿「利便性の高い公共交通ネットワークの形成をめざします。」のところの公共交通ネットワークは市営のみを考えているのか。
- ・ 都市計画道路で不要になっているものもある。地域が「廃止したい」と考えるなら、合意して手続きをすればできるかもしれないが、「半分の幅員でつくってほしい」というところもある。その場合、廃止してもう一度地域で計画を作るのは市民の負担が大きい。地域と協働して、行政が主導して取り組むような仕組みが必要だと思う。

(事務局)

- ・ 公共交通ネットワークについて、公共交通事業者として市営だけでなく、民間事業者も当然入っている。
- ・ 都市計画道路については、一般的にいわれる幹線道路は約98kmが未着手の状態となっている。計画決定のうち8割は整備済みであり、政令指定都市の中では高い整備率であるが、残るものの60%が計画決定からすでに60年を経たものとなっており、今後、効果的・効率的な整備を進めることが必要となっている。道路には骨格をになう道路と生活道路があるが、P65(オ)では主に骨格をになう道路について効果的・効果的な整備を推進することを、また生活道路については、道路の問題だけでなくまちの課題の解決としてどう考えていくのかという視点が必要と考えて同イ(ウ)のように記載しており、今後、具体的な施策に反映していきたいと考えている。

【地域の特色ある環境を育む等について】

(ニュータウンのオールドタウン化への対応)

- ・ P74 ニュータウンのところでは住宅ストックの更新が必要となるはずで、ニュータウンのオールドタウン化ではなく、高経年マンションへの対応などを記載したほうがよいのではないか。
- ・ 高経年マンションへの対応はP27のすまいの記述のところで記載内容を工夫して対応するのがよいと思う。

(密集市街地の再生)

- ・ P74 密集市街地のところにも、都市計画道路の件を書けるのではないかと。
- ・ P74 長田では密集市街地への対応は重要で、指針に盛り込んでいるのは良い。長田に

ついで言えば、以前は西の副都心といていたが、それも今回はない。

(田園地域の活性化)

- ・ P75 の田園地域のところで、自給率が大切である旨を記載すべきではないか。また漁業の記述も必要かと思うが。

(事務局)

- ・ 自給率が低い状況であるので、P30 農水産業の記載部分で、地産地消の推進を記載している。こうべ給食畑といった取り組みなどを行っているところである。

【リーディングエリアについて】

(ポートアイランド)

- ・ P83 とともに進める取り組みの①カ「空港島とPIの連携、一体的なまちづくり」というのは疑問がでる可能性がある。十分な説明ができるよう準備しておく必要がある。

(兵庫運河周辺)

- ・ P84「兵庫運河周辺」について。いま新長田では鉄人プロジェクトで盛り上がっており、150万の人が鉄人を見に来られている。まさにメガ・リージョンの取り組みだと思うが、兵庫運河周辺には新長田は入っているのか。
- ・ P82 に今後も国際的な都市間競争に負けない選ばれる都市の記述があるが、誰に選ばれると考えればよいか。この表現だと、神戸は今、選ばれる都市ということになるのか。またリーディングエリアとして兵庫運河を位置づけているのは、本当にふさわしいのだろうか。
- ・ 運河周辺の企業が持っている世界と連携した取り組みは、市民にとっても非常に大きな財産である。これまではそのような取り組みは企業がやっていることといった程度の認識だったが、地域ぐるみでやっているということ的位置づけることは非常に良いことだと考える。
- ・ 兵庫運河というネーミングがもっと魅力あるネーミングになれば、印象が変わるかもしれない。

(事務局)

- ・ 兵庫運河周辺については、運河周辺の基幹産業エリアも含めた範囲と考えている。新長田についてはこのエリアの対象とはしていない。
- ・ 都市間競争の記述の部分で、誰に選ばれるかということ国内外の方ということになる。事業者や大学なども含まれる。兵庫運河周辺については記述にもあるが、世界最先端の技術を有する企業が集積しており、神戸としては大事にしていくべきエリアと考えている。ご指摘の意見もあり、ご議論いただきたいところである。

【その他について】

(記述表現について)

- ・ 指針の構成だが、序論で始まりむすびで終わっている。むすびで終わるなら、「はじめに」と大和言葉で書いてはどうか。

(個人の意識向上について)

- ・ 低炭素社会の実現、減災への取り組み、密集市街地の再生の問題、個人個人の行動が必要と思われる。個人の意識を変えることが重要であり、記述の優先順位を上げるべき。P51の⑤防災意識の向上についても、①として記載すべきと考える。
- ・ 市民の意識向上を最前列に持ってきた場合、行政は何もしないのか。といったご意見もでてくる。そのあたり調整部会での検討が必要と思われる。

(六甲山のビジョンについて)

- ・ 先日、松方ホールで六甲山の歴史・植生・観光などをテーマにしたフォーラムを開催した。3時間あまりのフォーラムで、アンケートも6割回収できるなど市民の六甲山に対する関心の高さがうかがえた。六甲山は非常に有名で、市民の財産である。ところがリーディングエリアに六甲山が上がっていない。六甲山をどうするかというビジョンを示さないのはどうか。
- ・ 六甲山の記述を増やすご意見があったが、例えば、P52 めざす姿の港、異人館、酒蔵、温泉、田園のところの記載に六甲山を加えることで対応できるのではと思う。

(縮退の取り扱いについて)

- ・ 縮退の件について、向こう30年を考えると想像したくない人口動向が推計されている。ただ、いまの記述では縮退の図式が見えない。強く書く必要はないが、ひどいところにメスをいれておかないといけないのではないか。

(総合基本計画の視点について)

- ・ マスタープランと実施計画の体系をよく頭にいれてやっていただきたい。神戸に住んでいるからといって、神戸だけに目を向けてはいけない。せめて関西における視点が必要ではないか。
- ・ 一番大事なことは市民が主役のまちであること。9区が自分たちのよいところをPRしていこうとしている。やはり行政のほうが夢をもって、方向性を示していただき、それを私たちが担って実行していくまちこそ栄えていくのではないか。

以 上